

(別紙4-1)

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000120		
法人名	北見福祉偉業サービス株式会社		
事業所名	グループホーム しあわせ館		
所在地	北見市東相内町143番地32		
自己評価作成日	平成23年9月27日	評価結果市町村受理日	平成23年11月30日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「人に寄り添い笑顔で語らう。人に寄り添い心に寄り添う」を目標にお一人お一人に合わせたケアを行っています。また戸外の心地よい刺激を受けて頂けるよう外出支援には力をいれております。買物や床屋など個別の対応も行ってあります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0195000120&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0195000120&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成23年10月14日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成19年開設の「グループホームしあわせ館」は広い敷地を有し、2階建て2ユニットとなっております。サービス、高齢者下宿が併設されています。事業所周辺は田園風景が広がり、のんびりと四季が肌で感じられる環境となっています。管理者、職員は利用者、家族が安心して生活が送れる様に心を配り、家族への報告や連絡を密に取りながら利用者の心を大切にケアに取り組んでいます。又、利用者のこれまでの関係の継続や楽しみの為に外出支援に力を注ぎ、事業所の特徴の一つとなっています。本年4月からの職員、管理者の退職という状況を代表者、現管理者は更なるサービス向上の機会として捉え、職員間のコミュニケーションを図り、情報共有の毎週ユニット会議を開催し、利用者、職員の課題を全体の問題として前向きに取り組む中で、代表者、管理者、職員の信頼関係が構築されています。管理者は職員の専門性向上に向け介護記録の充実を指導しており利用者の状況変化の把握に繋がりケアサービスに反映されています。事業所内は明るく季節感を取り入れた飾り付けがされ、ソファの配置、温度、湿度等配慮されて、のんびりとくつろげる空間を提供しています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を掲げ、理念をもとにケアを行っている。今後も理念を大切にサービスの質の向上に努めていきたい。	介護理念「人に寄り添い笑顔で語ろう 人に寄り添い心に寄り添う」を事業所内の目に付く所に掲示し常に認識出来る様になっています。管理者は会議時毎に理念の大切さを語り、職員に浸透して来ています。	介護サービスの根幹である理念の大切さを職員は認識して来ていますが新規採用職員を含め、更に理念の具体化に付いて深め、日々のケアサービスに反映して行く事を期待します。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の方との挨拶や会話を心がけている。町内会の行事に参加し関係性を築けるよう努めたい。	町内会に加入し清掃等の行事に参加しています。2か月おきに発行のホーム便りを地域住民に手渡しする等交流に努め事業所の理解に繋げています。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方への支援の方法等理解して頂こうと努めている。今後理解を深めて頂けるよう努めていきたい。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開き、報告やグループホームの現状や取り組み等話し合い意見を頂いている。今後も意見をサービスに反映できるよう努めていきたい。	町内会会長、民生委員、他事業所職員、認知症知見者、地域包括支援センター職員、市介護福祉課職員等が参加し、概ね2～3か月毎に開催し、事故報告、状況報告等話し合い運営に反映する様努めています。	家族の参加を呼び掛けていますが参加が得られていない状況になっています。今後も定期的な開催と家族の参加を促す工夫、又、議事録を家族、参加メンバー、職員と共有し更なるサービス向上に活用する事を期待します。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に出向き、市町村担当者に相談や話し合いをし、必要時には協力をお願いしている。	常日頃より市の担当者と相談や情報交換に努めサービス向上に反映する様取り組むと共に、運営推進会議に市介護福祉課職員が参加し協力関係を築いています。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。また管理者・職員が研修に参加し職員全体で共有できるように努めている。	管理者、リーダー職員が実践者講習で得た知識を職員に伝達講習し、身体拘束をしないケアの理解に繋がっています。気になる言葉づかい等があった場合はその都度管理者が注意を促し利用者の尊厳に配慮したケアに努めています。玄関の施錠は夜間のみとなっています。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は研修等に参加し虐待に関しての知識や理解を深められよう努めているがまだ不十分な部分がありこれから研修に参加したり、勉強会を開いていきたい。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体的に権利擁護についての意識は薄く理解が不十分である。今後も理解を深められよう研修会など開いていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する場合利用者や家族が不安や疑問がないよう十分な説明を行っている。何かあればその都度利用者・家族と相談しながら対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族がスタッフと話しやすい雰囲気・環境作りに力をいれている。また運営に反映するべきことには早急に対応するように努めている。	家族に安心感を持って頂く為にきめ細かく報告や連絡を行っています。家族の訪問時にはお茶を出して積極的に話しかけ信頼関係を築くよう取り組んでいます。寄せられた意見、要望には速やかに対応し運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで職員から意見・提案・思いを求め運営に反映するよう努めている。	職員間で情報を共有しサービス向上に資する為、代表者、管理者はユニット会議を頻繁に開催し職員の意見表出の機会を設け信頼関係を構築しています。又、職員の希望を反映した勤務表を作成する等就業環境整備に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握し、やりがいをもち働いて頂けるよう、頑張った人が報われるように給与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会に参加するよう心がけ、研修報告を行い職員全体で共有しケアに繋がるよう努めている。今後内部研修も行っていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員が研修や勉強会に参加し、サービスの質の向上に努めている。また他グループホームとの連携を図り情報交換・相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心した生活を過ごせるよう、本人のお話をお聞きし、出来る限りご希望や要望にお応えできるよう努めている。今後も本人との関係性を大切にしていきたい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望がある場合には耳を傾け信頼関係を築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にアセスメントを行い、必要なサービスが行えるよう介護計画を作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念をもとに共に生活しているという気持ちを持ち、お一人のお一人の心に寄り添い信頼関係を構築できるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係性を大切にしながら、必要時には支援の協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に本人が馴染みの床屋さんやお店に外出する等の支援を行っている。関係性が継続できるよう支援していきたい。	家族や、親戚等の協力を得ながら馴染みの商店での買い物や理容院への外出支援等、利用者のこれまでの生活継続を目指し個別支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し良好に保てるよう配慮している。支え合う関係性という部分では不十分である。今後関係性を築けるよう努めたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去される場合や入院される際には必要な情報を提供するなどの相談や支援に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に相談しながら本人の希望に添えるよう努めており、必要であれば会議を開き検討している。	管理者、職員は利用者との会話や様子から希望や要望の把握に努め家族と協力しながら実現する体制を整えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴など十分に理解できていなく、またケアに繋がられていないのでお一人お一人を理解することから始めていきたい。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人がどのように一日を過ごしたいのか、現在の心身の状態や残存能力を把握し毎日のケアを行っているが不十分なところが多い。今後職員全体が把握できるよう努めていきたい。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に相談し、意見や思いを受け止め介護計画に反映できるよう努めている。	利用者、家族の意向をもとに、センター方式を活用し記録の充実を図り介護プランに反映する様努め利用者の状況に即した介護計画を作成しています。介護プランは日誌に添付しプランに沿ったケアの実施に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を活用し毎日の様子やケアについての実践についての記録を行っているが気づきや工夫については記載が不十分な部分もある。介護計画作成時にはケアマネージャーと介護職員で話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族と相談しながらニーズに合わせてその都度会議を行い生活の支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等で町内会・民生員等から意見を頂いている。今後も本人の力を発揮しながら安全な暮らしを送れるよう努めていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談しながらかかりつけの医療機関を定期的を受診されている。又必要時には訪問看護や往診にて対応しています。	利用者・家族の希望するかかりつけ医への受診を基本に、利用者の状況に応じて往診もあり、適切な医療に繋がっています。訪問看護師(週1回)と連携し、健康管理に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者の方の変わった状態や症状を看護師に報告・相談し対応している。週に1回訪問看護師には内服薬の変更や状態に変化があった場合には相談や報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供や相談を行っている。医療機関のスタッフと連携を図りケアが円滑に出来るよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については早めに家族と相談し、往診等の対応を行っている。管理者・リーダーが研修に参加し会議の際報告をしスタッフ内で理解を深めていきたい。	重度化や終末期のあり方については、利用者の状態変化時に家族・かかりつけ医等の関係者で話し合い、同意書を交わしています。かかりつけ医の往診体制を整えながら、エアマットを使用するなど、本人・家族の思いに添った支援に努めています。	重度化や終末期における対応については事業所の方針を整理し、家族に早い段階で説明すると共に職員も研修や勉強会を通じて理解を深められるよう期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命等の研修を予定しているも行っていない。今後定期的な研修を行ってきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の体勢・訓練はおこなっている。訓練に関しては年に2回行っておりうち1回は夜間を想定して行っている。他の災害に関しては「不十分である。今後行っていきたい。	消防署の協力のもと、年2回、夜間・日中を想定した避難訓練を実施し、町内会長の連絡網への協力や役割、避難場所等は明確になっています。建物は耐火構造になっており、40分は燃えない仕組みになっています。	いつ起こるかわからない災害については、火災だけではなく色々な場面(地震・大雪など)を想定した訓練が必要と思われます。マニュアル等の整備や地域住民の理解を深め、一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの考慮という部分ではまだまだ不十分でありこれから研修や内部研修会を開き理解を深めていきたい。	一人ひとりを年長者として敬意を払い、言葉がけや対応を心掛け、本人の思いに添ったケアに努めています。管理者はプライバシーの配慮については更に職員の理解を深めるために内部研修、勉強会を検討しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示のない方も多く、その中で本人の自己決定が出来る環境作りにも力を入れていきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先になってしまいがちでケア会議等でその都度本人にはどのような支援が必要か検討しているが今後も話し合いを重ねて本人のニーズに近づけるよう努めていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毛染めを行ったり、化粧をしたり等個別の対応を行っているがまだ不十分な部分があります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛り付けは職員と入居者の方が一緒におこなっている。片付けは食器を拭いていたいたりしている。	利用者の希望を考慮したメニューで、法人の調理部で作られており、準備や盛り付け、食器拭き等を職員と利用者が一緒に行っています。外食やお弁当を持って出掛けたり、喜寿、米寿等にはお祝い膳を職員が手作りし、家族と一緒に楽しい食事が出来るよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎食後チェック表をつけ全員が把握できるように努めている。個人に合わせ介助や見守りを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後咳嗽薬を使用し口腔ケアを行っている。本人の口腔状態に応じ歯間ブラシを使用するなど口腔内を清潔に保つよう努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを調べ、紙パンツから布パンツへ変更したり自立排泄を目指し支援している。	排泄記録をもとに利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導したり、状態に応じた適切な介助により自立排泄に繋がっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう水分量・運動量・食事量には配慮し、排便チェックを行い必要時には乳製品や腹部マッサージで対応している。また必要時下剤などで対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調により夜間入浴等対応している。日中の入浴の時間帯は決めていますが出来る限り本人の希望に合わせた対応を行いたい。	本人の希望や体調等に配慮しながら、週2回は入浴できるよう支援しています。仲の良い同士と一緒に入ったり、足浴や温泉へ出掛けることもあり入浴が楽しみに繋がるよう工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠な時はお話をしたり、暖かい飲み物をお出しするなどの対応をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人お一人がどのようなお薬を飲んでいてどうして服用しているのか一覧表を作成して周知していますが職員の理解が不十分なところがあり、今後把握や理解を深められるよう努めていきたい		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみや気分転換は外出やレクリエーションを通し支援しています。生活歴を理解した上でのケアはまだまだ不十分な部分がありますのでお一人お一人を理解した上で支援していきたい。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援には力をいれているがADLの違いもありこれからは個別の対応に力を入れていきたい。家族の方や地域の方と協力して外出はできているのでこれから協力して頂き外出支援に力を入れていきたい。	散歩、日光浴、花壇作りなどの日常的な外出やレクリエーション(流しソーメン・サマーフェスティバル・花火)を通じて外気に触れるよう努めています。また、お弁当を持ってドライブに出掛けるなど、外出機会は気分転換、楽しみに繋がるよう積極的に取り組んでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所の預かりとしていますが、本人の希望によりお小遣いを持っておられる方もいらっしゃいます。本人の希望に合わせて買い物を行うなど対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時に電話を掛けたり、本人のお手紙を預かり投函する等の対応をしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱をまねくような刺激は避け、心地よい雰囲気作りを目指しています。季節感を十分に採り入れられていないので今後力を入れていきたい。	共有空間は光がよく採り入れられ、明るくゆったりとした造りで、利用者にとって使い勝手や安全面に配慮がされています。観葉植物や季節の花が飾られ、家庭的な心地よい雰囲気になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で思い思いに過ごされている方や食堂や居間のソファにて談話されておられる方もいらっしゃいます。皆さんが居心地が良いと思って頂けるよう努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使用していたなじみの深いものを持ってきていただいている方もおり、本人が居心地良く穏やかに過ごして頂けるよう対応しています。	居室には家具や衣類など、本人が使用していた馴染みの物が持ち込まれ、居心地の良い空間になっています。また、アイドルの写真や花を飾るなど、一人ひとりの個性に合わせた部屋作りがされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所には手すりを設置、玄関はバリアフリーになっており安全に配慮しながら本人が今できることを維持できるよう支援している。		